



APAY eNews

翻訳: 永岡美咲・佐々木美都(日本 Y M C A 同盟)

第 29 回 アドバンスト・スタディーズ・プログラム (以下、ASP)が終了しました

2011 年 11 月 14 日(月)~12 月 10 日(土)の 27 日間、
香港のウーカイシャ・ユース・ビルで行われた第 29 回
ASP には、7 つの Y M C A から 10 名が参加しました。



研修生たちは、現在それぞれの Y M C A から発せられる
トレンドや課題が何であり、またそれらの課題に対処する
ための革新的な方法がどのようなものかなど、毎回この
研修プログラムに寄せられる期待と同じように、Y M C A に
関する知識を深めたいと望んでいました。しかしながら、
すべての研修プログラムを修了すると期待以上の成果が
得られるのです。以下は、参加者がこのプログラムから感
じ、また今後活かしていく有意義な学びの経験と夢につい
てです。

中国の天津 Y M C A のアシスタント・ディレクターである
キャロル(フォー・イェンチウ)は、自分の Y M C A がわずか数
人のスタッフで運営されているといいます。彼女は精力的
に、大学生とともにいくつものプログラムを担当してきま
した。彼女はこの研修が終わるとすぐに、「公正な気候変動
対策(Climate Justice)」をテーマにしたプロジェクトを始動

したいと考えています。また、ユースのための国際交流を
さらに促進するために、香港滞在中には香港中華 Y M C A
とのつながりをより強化してきました。

ショーン(ツァイ・シューチュン)もまた中国からの参加
者です。彼は広州 Y M C A の社会福祉サービス部門の主
任主事です。彼は、広州 Y M C A に 8,000 人以上のユース
がボランティアとして関わっていることをとても誇りに思っ
ていて、ユースたちのよりよい成長を願い、すべてのユース
に「ユース・リーダーシップ研修」と「地球市民育成研
修」を行う計画をしています。

Orasio(Orasio Mendes)は ANJUCTIL として知られて
いる東ティモール Y M C A の総主事です。彼の Y M C A は誕
生して間もないため、数名のスタッフしかいません。この
研修の初めに、彼は Y M C A において多くの経歴をもっ
ていないと明かしました。だからこそ彼は、この研修で多
くのことを学びたいと思っていましたし、実際に ASP では
とても多くのことを学ぶことができました。アジア・太平洋
Y M C A 同盟(APAY)のグローバル・オルタナティブ・ツー
リズム・ネットワーク(GATN)に感化され、2012 年には、東
ティモール Y M C A でオルタナティブ・ツーリズムのプログラ
ムを採用しようと考えています。

Carman(ウォン・イウユー)は Uni-Y 部門と密接に関わ
っている、香港中華 Y M C A のコーディネーターです。香港
中華 Y M C A 内には精力的に活動する Uni-Y のグループ
が複数あり、特に国際交流プログラムなどで素晴らしいプ
ログラムを行っています。研修後、Uni-Y のグループ向け
に、「U Start(あなたが始める)」という新しいプログラムを
始動することを計画しています。

ジョイス(ジョイス・チャン)は香港中華 Y M C A 九龍セン
ターの主任プログラム長を務めています。彼女は過去数
年間、スポーツ・レクリエーション・プログラムの担当をし

できました。グリーン・コミュニティーを提言するため、九龍センターで「緑の台 (green podium)」と呼ばれる巨大プロジェクトを計画しており、そのプロジェクトのハイライトのひとつは有機農業とのことです。

小林直樹(私たちは親しみをこめて「直樹さん」と呼んでいます)は、大阪 Y M C A 国際専門学校高等課程 表現・コミュニケーション学科のスタッフです。大阪 Y M C A の高校生たちに対し、彼は目標と大きな夢を持っています。彼の使命のひとつは、生徒たちが高校卒業後、就職し、よい仕事を得られるよう、多くの機会を提供することです。ASP の間、高校生たちのために、若者の雇用に対処できるようなプロジェクト・プランを練っていました。

シルビア(Sylvia Piedad)は、フィリピンのダバオ Y M C A でプログラム主任として約 2 年間働いてきました。ダバオの若者たちがより良い機会を得られるよう、彼女はダバオ Y M C A にユース議会 (Youth Council) を設立したいと考えています。この議会を設立する目的は、ユースが自分たちに関わる現代の課題に知的に話し合い、また差し迫った課題に対する行動を計画するための場や機会を提供することが目的です。

ブラウンソン(Theonis Charles Brownson)はスリランカ Y M C A 同盟の平和・和解と復興担当の主任主事です。そのため、「パルミラヤシ(Palmyra)を通じた和解」という 10 か年のプログラム案を作りました。これは壮大なプログラムではありますが、外部からの資金を募ることができる彼の能力をもってすれば、将来、このプログラムがスリランカ社会に大きな影響を与えることは確実でしょう。

Prabu(Joseph Anthony Prabu)はスリランカ・トリンコマリ Y M C A の総主事です。彼の Y M C A は、最近多くの課題を経験しています。しかしながら、忍耐強い彼の働きによって、現在でもユースを対象とする充実したプログラムを行うことができます。トリンコマリの若者たちの多くの希望がかなえられることを夢みながら、彼は、ユースの視野を広げ、また 2009 年に終結したスリランカ内戦により激怒した人たちから、ユースの関心をそらすことができるように、IT に関連するプログラムを構想しました。

最後に、台湾から参加した K.D.(陳啓智:Chen Chi

Chih)について紹介します。彼は現在、彰化 Y M C A の総主事です。彰化 Y M C A はたった 4 人のスタッフしかいない、小規模な Y M C A です。にもかかわらず彰化 Y M C A は、すばらしくまた興味深いユース対象のプログラムを行っています。若者をさらにエンパワーするという期待を含め、K.D. は現在行われているプログラムを強化する計画を立てています。プログラムを健全に運営するための資金を得るといふ彼の努力の賜物によって、間違いなく、若者たちは、エンパワーの機会をより多く得られることになるでしょう。



これまで紹介してきたすべての研修生は、どのようにすればこれらのプロジェクト・プランを効果的に実現できるか、懸命に考えてい

ます。ユースとコミュニティーのエンパワーという共通の目標を通して、私たちの社会の現実は近いうちに变革していくでしょう。そうすれば、その目標が Y M C A のミッションに具体性をもたらすでしょう。

私たちの Y M C A に集う兄弟姉妹と希望を共有し、兄弟姉妹に幸福をもたらすことを通じて、真のクリスマスの福音を日々広めていきましょう。

シンガポールで APAY リーダーシップ会議開催

アジア・太平洋地域の Y M C A リーダーシップによる 4 年計画に関する円卓会議 (APAY Leaders Quadrennial Roundtable) が 2011 年 12 月 17 日から 19 日にシンガポール・メトロポリタン Y M C A にて開催されました。12 の国・地域の Y M C A から 29 人が出席しました。出席者は、APAY 役員、レイリーダー、各国総主事、ユースと APAY スタッフでした。



このリーダーシップ会議は、9月にマレーシア・ペナンで開催されたアジア・太平洋YMCA大会の声明・宣言を再検討する目的で行われました。本大会での話し合いに基づき、次の4か年に向けて戦略計画を立案しました。また円卓会議では、各国YMCAがこのプロセスに能動的にかかわり、ローカル・ナショナルの各レベルのYMCAで共有され、実行可能な計画を実現することが確認されました。

このプロセスには、新たに取り組み、対処する必要のある重要な問題や関心事を見つけ出すこと、行われるべき審議や戦略、反響(response)からもたらされる成功や影響の基準となる指標を探ることも併せて行われました。この会議の報告は、詳細な成功に関する指標と実行計画をめぐって、APAY スタッフによって再び検討されます。

APAY の新役員より、計画を効果的に運用するための組織の変更について報告されました。最終的な計画は常務委員・参加者の手に渡り、2012年3月5日から10日に行われる APAY 常務委員会での承認の前に、コメント/修正、確認が行われる予定です。

温かく私たち出席者を迎えてくださった、シンガポール・メトロポリタンYMCAとシンガポールYMCAに感謝申し上げます。レイリーダー、各国総主事、ユースたちの戦略プロセスへの参画に感謝いたします。

日本からは島田茂同盟総主事が出席しました。

APAY 主催オルタナティブ・ツーリズムに関する国際フォーラム

APAY 主催オルタナティブ・ツーリズムに関する国際フォーラムが、2011年11月24日～30日にカンボジアで開催されました。オーストラリア、カンボジア、香港、インド、インドネシア、ケニア、韓国、ネパール、パレスチナ、フィリピン、スリランカ、タイ、ベトナムの各YMCAから37名と、EED ツーリズム・ウォッチ、ECOT (Ecumenical Coalition on Tourism)、ICFとツーリズム・リサーチの代表が集まりました。

リソース・パーソンたちと参加者は、ツーリズム(観光業)に関する現在の世界的な風潮によって顕在化する課題や機会について、より詳細な分析を行いました。この分析から、変革を遂げた(新たな)ツーリズムのオルタナティブ(新しい方法)を増やす際、YMCAの役割や戦略をどのようなものにするかという議論へと発展しました。コミュニティーに根づいたツーリズムの理論と実践に関する詳細な勉強会が行われました。プノンペン王立大学の Rith Sam Ol 博士は、カンボジアでのコミュニティーに根づいたエコツーリズムの戦略について報告しました。Heinz Fuchs 氏(ツーリズム・ウォッチ代表)、Cesar De Mello 氏(ECOT 代表)、マックス・エディガー氏(ICF コーディネーター)、Nidal Abuzuluf 氏、パク・ジェチャン博士、Chularat Phongtudsirikul 氏、アンドリュー・レオ氏、Jose Varghese 氏がその他のセッションの報告者・司会者を務めました。この会議の成果は、「グローバル・オルタナティブ・ツーリズム運動を確立するために、パク・ジェチャン博士を議長としたワーキング・グループをつくる」という結論に至りました。認定基準、研修とカリキュラムの開発、提言、倫理基準、およびマーケティングについてのタスク・グループも新設されました。このフォーラムは、EED とオーストラリア・ビクトリアYMCAからの支援により行われました。この会議の事後活動としては、20のYMCAの研修に対する支援、国内からの旅行者による試験的なツアー、ツーリズムの問題に関する提言、倫理基準の実施や、GATN ウェブサ

イトを通したオルタナティブ・ツアー・プログラムのマーケティングなどがあります。

参加者からの感想:

オルタナティブ・ツーリズムに関するフォーラムは、私にとって、とても勉強になり、見聞を広めることができました。Y M C Aの仲間としての友情や絆はすばらしく、励みになるものでした。とても実践的なコミュニティー・ツーリズムのエクスポージャー(フィールド・ワーク)は目を見張るものでした。コミュニティーによって所有、管理されているプログラムと、そのプログラムによって得られる収入は、コミュニティーの人々の利益としてコミュニティーにとどまります。ケニアY M C Aは、以下の5つの目標を掲げ、オルタナティブ・ツーリズムに着手しようと計画しています。a) 旅行者が地元の人々の文化を学ぶことができる機会を創出すること、b) 旅行者とコミュニティーとの交流を可能にすること、c) 旅行者がコミュニティー開発に参加できるような方法をつくること、d) 旅行者が環境保護活動を正しく理解し、その活動に参加できるようにすること、e) 旅行者が多様性を認識できるような機会を創出すること。

(Jared Musima、ケニア)



カンボジアでのGATN会議

今回、初めて海外での会議に参加しました。当初は、ワークショップとはどのようなものか知りたいと思っています

した。スタッフとして、他のY M C Aが行うオルタナティブ・ツーリズムの活動についてさらに探り、また可能であれば他のY M C Aとのパートナーシップを結びたいと考えていました。また、それぞれの分野の専門家である参加者の方々から、多くのことを学びたいと期待していました。しかし、ベトナムに帰国してから、期待した以上のことを学んできたのだということに気づきました。経験豊富な報告者の方々によるセッションのすべてから、ツーリズムに関する綿密な知識を得ることができました。さまざまなY M C Aの活動やオルタナティブ・ツーリズムの機会を共有するセッションは、非常に興味深いものでした。特に、国際交流プログラムについて報告されたシンガポールの Andrew Leo 氏に感銘を受け、送り出す側の組織が受け入れ側の組織に対してどれほど期待しているかについてさらに学びました。ベトナムY M C Aの活動の目標は、ワークキャンプやスタディーツアーを通じてオルタナティブ・ツーリズムを促進していくことです。私たちは、来年(2012年)、環境に配慮しつつ名所・史跡をめぐる旅を計画したいとも考えています。

(Trang Nguyen、ベトナムY M C A)

グローバル・オルタナティブ・ツーリズム・ネットワーク(GATN)は、ツーリズムによる悪影響を監視し、コミュニティーや社会を変革するよう各Y M C Aに要請しています。個人的には、ジェンダーに関する配慮、子どもの保護や、環境に対する責任、文化的に適切で公平な経済的利益の分配に関して、知識を増やし、意識を高めることができました。コミュニティーに根づいたオルタナティブ・ツーリズムのモデルは、社会的責任と自己実現とのバランスをとるための基準を示しています。オルタナティブ・ツーリズムは、ホスト(受け入れ側)とゲスト(旅行者)の win-win(相互利益)関係のために投資するには、最適の分野であると強く信じています。オルタナティブ・ツーリズムにかかわっているコミュニティーは、徐々に全体的に発展していくことでしょう。

(Christoper Bachman、インド)

非常に温かく、プロフェッショナルなおもてなしをしてくださったカンボジアYMCAに感謝申し上げます。

ICF 運営委員会、カンボジアで開催

宗教間協力フォーラム (International Cooperation Forum: ICF) 運営委員会が 12 月 3 日～4 日、カンボジア・プノンペンで開催され、2011 年の地域内のネットワークの働きを振り返り、来年 (2012 年) の活動の計画についての話し合いを持ちました。ビルマ(ミャンマー)、カンボジア、ネパール、フィリピンからの運営委員と ICF スタッフの他、宗教間対話プログラムのプロジェクト運営事務局として、APAY 総主事の山田公平と、アジアキリスト教協議会総幹事の Henriette Hutabarat Lebang 博士がそれぞれの組織を代表して参加しました。

2011 年に APAY と ICF が協働で行ったプログラムは、2 月にネパール・カトマンズで行われたオルタナティブ・ワークショップに関するワークショップと、7 月にバングラデシュ・ダッカで行われた 2 週間の平和学校 (School of Peace: SOP) であったと報告されました。また、ICF コーディネーターのマックス・エディガーが、9 月にマレーシア・ペナンで開催された第 18 回アジア・太平洋YMCA大会の基調講演を行いました。さらに、11 月にインドネシア・ジョグジャカルタで、先住民の宗教観 (spirituality) に関するワークショップも開催されました。

2012 年の ICF の主要なプログラムは、2 月 1 日からインド・バンガロールで行われる 14 週間の平和学校 (SOP) です。25 名の参加者がバングラデシュ、ビルマ(ミャンマー)、カンボジア、東ティモール、インドネシア、ラオス、ネパール、フィリピン、スリランカ、ベトナムから選ばれた他、アジア以外の地域からの参加者(イングランドのローカルYMCAのスタッフ1名と、アメリカ出身、カナダ出身のネイティブ・アメリカン各1名)が初めて、平和学校に参加することになりました。

2012 年に行われることが確認された他の ICF プログラムには、1 月 29 日～2 月 4 日にインド・オリッサ州で APAY

と共催されるワークショップがあります。オリッサ州では最近、数年間にわたって宗教が異なる共同体での暴力があったところです。(詳細は下記参照)

運営委員会では 2012 年に ICF が行う他の多くの活動についても議論されました。他には、メコン川流域のようなサブ・リージョン・レベルのプログラム、特に暴力的な紛争が起こった地域での和解に関するワークショップや、平和学校の修了者たちに人権やコミュニティー運営といった分野のリソース・パーソンとなってもらうための一連の研修があります。

APAY と ICF、オリッサのワークショップで壁を乗り越え、架け橋となる道を模索

インド・オリッサ州の人々は、ヒन्दゥ教徒コミュニティーとキリスト教徒コミュニティーとの対立状態や暴力の中での生活を長い間営んできました。インド東部で若者が直面するこのような困難に対処する手段を提供するために、APAY と ICF は 1 月 29 日から 2 月 4 日、オリッサ州のブバネーシュワル (Bhubaneswar) 地区で現地YMCA主管によるワークショップを開催します。このワークショップは「壁を乗り越え、橋を架ける (Breaking Walls, Building Bridge)」をテーマとし、オリッサ州やインドの他の地域から約 30 名と、同じような紛争を経験してきた他のアジアの国々からの数名が参加する予定です。

関心のある参加者は、各国YMCA同盟を通し、2012年1月10日までにAPAYに参加申込をしてください。

YMCAワールド・チャレンジ (YMCA World Challenge) 2012

YMCAワールド・チャレンジの目的は、500万人を動員しYMCAのストーリーを語ることです。あなたの



Y M C Aワールド・チャレンジの計画を始めて、活動を世界中に広めてください。2012年、ともに歴史をつくりましょう！

APAY に新しい若手スタッフが加わりました



APAY に、新しい若手スタッフとしてイングランドY M C Aより Lewis Semper 氏が加わりました。APAY では、GATN プログラムを担当します。

21歳のルイスは、約2年間ロムフォード(Romford) Y M C Aで働いてきました。彼のY M C AでのキャリアはIT部門のパートタイム・ボランティアとして始まり、後にITサポート・オフィサーとしてフルタイム・スタッフとなりました。さらに人事担当としてもキャリアを積んでいます。また以前は、ロムフォードY M C Aでファンドレイズ活動でも非常に貢献していました。

国際的なプログラムとしては、2010年ノッティンガムで開催されたイングランドY M C A大会に参加し、また2010年香港で開催された世界Y M C A大会とユース・フォーラムにも参加しました。これらのプログラムを通して、国際的なY M C Aの働きやプログラムに対して関心を持つようになりました。ロムフォードY M C Aの国際ボランティアのプログラム(Volunteer Placement)によって、ついにアジア・太平洋地域のY M C Aの一員として仕事をするようになったのです。

彼は11月18日から、オルタナティブ・ツーリズムを促進するためにAPAYで働き始めました。APAYでの任期は1年の予定です。

フィリピンY M C A、新しい会長と総主事を任命



フィリピンY M C Aは2011年11月の役員会で、新しい連盟会長に Felix Eliral Refuerzo 氏を選出しました。彼はまた、2009年、2010年の2期務めた2012年のバギオY M C Aの会長としても再選されました。また、フィリピンY M C Aの財務担当を退きます。

Refuerzo 氏は現在ジャーナリストですが、フルタイムのジャーナリストとなる前は、優秀なY M C Aスタッフでした。

フィリピンY M C A連盟の総主事に任命されたパブリート・タブコル(Pablito Tabucol)氏にお祝い申し上げます。2011年11月に就任し、フィリピンY M C A100周年記念式典で正式に発表されました。



パブス(タブコル氏の愛称)は、プログラム・アシスタント、プログラム担当主事、運動強化担当主事として、24年間Y M C Aでのキャリアを積んできました。また、APAYの東南アジア地域のY M C A担当コーディネーターを務めてきました。さらに、さまざまな地域レベル、各国レベルでのプログラムや活動にも多く携わってきました。この数年間は、フィリピンでのY M C A主事を養成する研修であるキャリア形成プログラムのコーディネーター、また大学生対象であるY M C Aリサル(Rizal)・ユース・リーダーシップ・トレーニング・インスティテュートというディレクターとしても活躍してきました。フィリピンのプロフェッショナル・ディレクター会のメンバーであり、現在は副会長を務めています。

彼が最近参加したY M C Aのプログラムや会議としては、2011年の常務委員会、東南アジア地域対象のY M C A地球市民育成トレーナーズ・トレーニング、第2回ユース・アセンブリーと、第18回アジア・太平洋Y M C A大会、世界

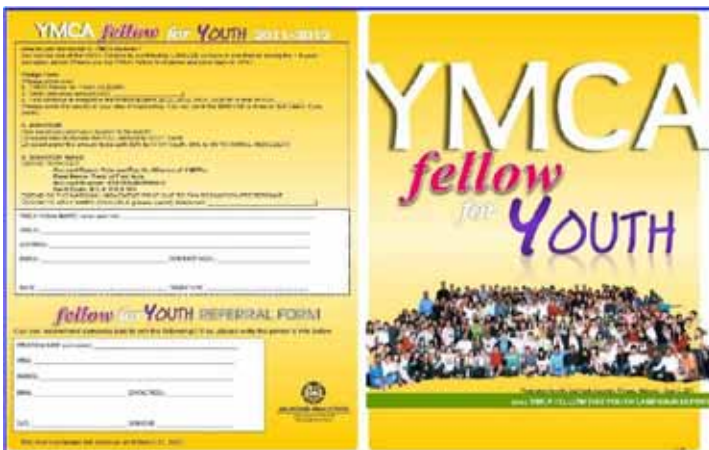
YMCA 同盟主催の地球市民ダイアログ、第 3 回リーダーシップ円卓会議があり、そこではコーディネーター、ファシリテーターや報告者を担当しました。

学生時代には教育管理学を専攻し、修士号と教職の資格を持っています。大学でも英語や文学を担当する授業を行うことがあります。また、自身の信仰に基づくキリスト教教育にも関心を持ち、独創的な礼拝や典礼においてワークショップやセミナーを行ってきました。

APAY はおふたりの就任をお祝い申し上げます。

APAY フェロー・フォー・ユース基金について

YMCA フェロー・フォー・ユース基金 (YMCA Fellow for Youth: YFY) の報告冊子が、第 3 回リーダーシップ円卓会議で配付されました。



YMCA フェロー・フォー・ユース (全 6 ページ) の報告書表紙

YFY は 2010 年に開始されました。この基金は、若いリーダー (YMCA の担い手) の育成、彼ら・彼女らの能力開発や社会性発達のための手段として用いられます。今回のキャンペーンは 2011 年 11 月から 2015 年の第 19 回アジア・太平洋 YMCA 大会までの期間で行われます。毎年少なくとも 100 の支援者を得ることが目標です。

日本の YMCA は、国際協力募金より 1 万ドルの支援を行いました。 (2011 年度)

YFY の冊子は、フェイスブックの APAY ページ、あるいはアジア・太平洋 YMCA 同盟ホームページから入手可能です。

総主事デスクより

クリスマスおめでとうございます！！

11 月から 12 月の 4 週間行われた主事養成アドバンスコースが修了しました。7 カ国から 10 人の参加でした。日本からも大阪の小林直樹さんが参加しました。その中で最初に学んだのが神学に関する学びでした。神をどう理解しているか、キリスト教信仰に基づいている YMCA にとって大切なところです。わたしたちが、現実の世界、社会をどう見るかが問われるからです。貧困、人権侵害、差別、紛争や地球環境の変化による災害などに対して、YMCA はどう立ち向かうべきなのでしょう。この学びを受けて、一人一人がそれぞれの地で何をすべきかを考え、計画を立てていくという課題がアドバンスコースの最後に行われます。みんなそれぞれが考え、計画を立てて発表しました。主催者側としては、これらの夢や計画がそれぞれの現場で実現されることを願ってやみません。以下、私も授業を受けて感じた神学の学びの一部をご紹介します。講師は、韓国の Youngnam Theological University and Seminary (嶺南神学大学校) で教鞭をとられている Prof. Park Seong-Won 氏です。

「わたし達はみんな神の創造物です。何か大きなものの働きによって人間の命も宇宙全体も動かされていると理解します。この宇宙の創造物すべてに関っている何か、わたしたちにとって神と呼ぶものではないでしょうか。わたし達すべて、宇宙全体、人も自然も、木も動物も昆虫も、見えないようなものも含めて神の創造物なのです。そして、そこには神の論理、宇宙の原則があると考えますが、それが何かを知りたいと努力します。神はわたし達にどうあって欲しいのかを見極める目が必要です。OIKOS と

言うのは神の住むところ、神の世界ともいえます。この OIKOS と LOGOS(論理)を合わせた言葉が、Ecology(エコロジー)です。エコロジーというのは、神が造った世界、宇宙そして人間というものを学ぶ学問です。まず、神が創造したもの、その論理(本質と原則)そしてその目的が何かを学び、わたし達の将来はどうなるかを考えていく必要があります。しかしながら、これまで人間はこの神との関係や論理を無視した行動をとってきました。開発あるいは経済的發展と言う名のものに神の創造の原則を超えた行動をしてきました。神の論理を無視することで創造の原則を破ってきたともいえます。このような開発や発展の名の下に行う環境や資源の搾取に気づき、それに気づき、とめる必要があります。そのためにも、わたし達の責任は、神がわたし達にどう語りかけているかを見極めることではないでしょうか。YMCA は神の目的のために働く団体です。それゆえ、わたし達は神がどう考え、何をわたし達に望んでいるかを見極めることを通して、その働きを考えていく団体です。その意味でも、信仰をもち、社会の流れとは違う働きのあり方を求めていきましょう。」

よいクリスマスとよい新年をお迎えください。信仰をもってより強く、前進する働きができますように。

発行元
アジア・太平洋Y M C A同盟
Asia and Pacific Alliance of YMCAs
23 Waterloo Road, 6th floor, Kowloon, Hong Kong
tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692
e-mail: office@asiapacificymca.org